

経営比較分析表（令和元年度決算）

岡山県瀬戸内市 瀬戸内市立瀬戸内市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	その他
経営形態	診療数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	14	-	ド訓	救 臨 輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
37,268	7,803	第2種該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

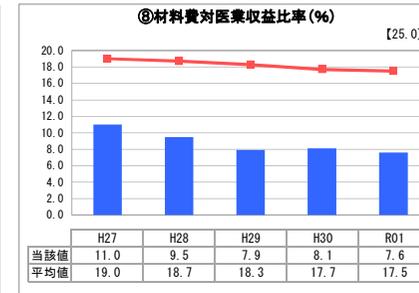
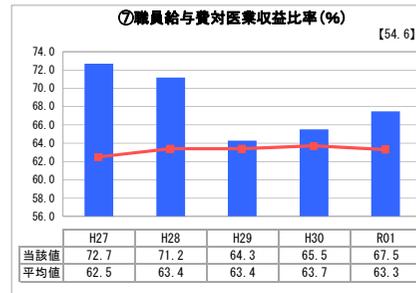
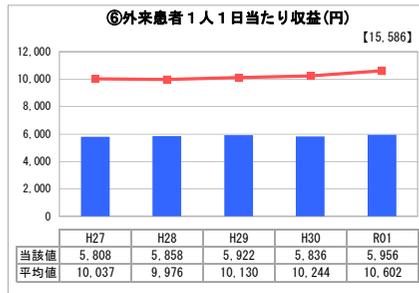
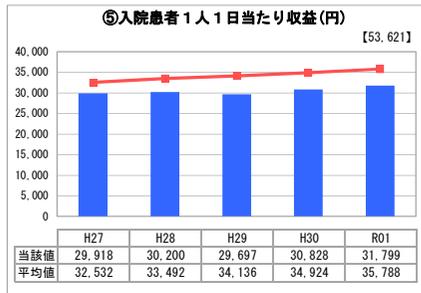
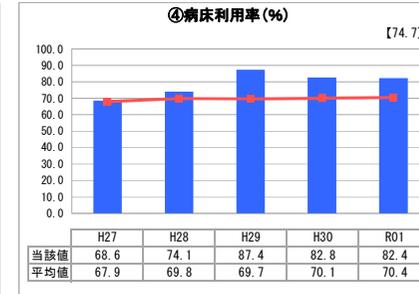
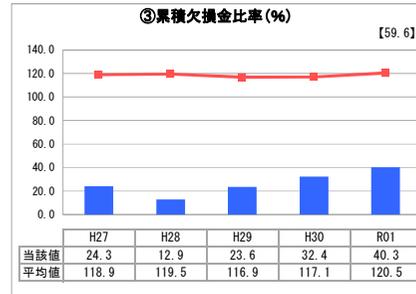
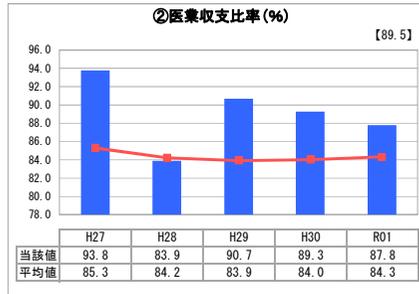
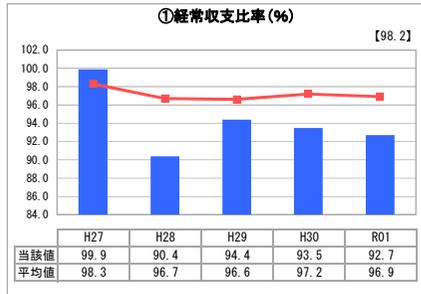
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 ガ…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
110	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	110
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
110	-	110

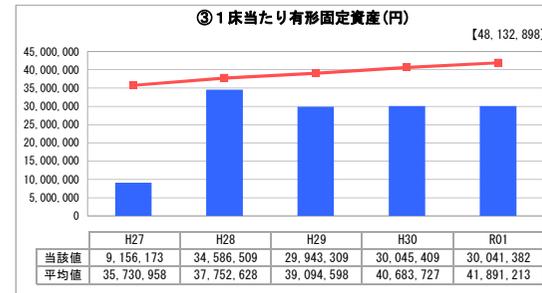
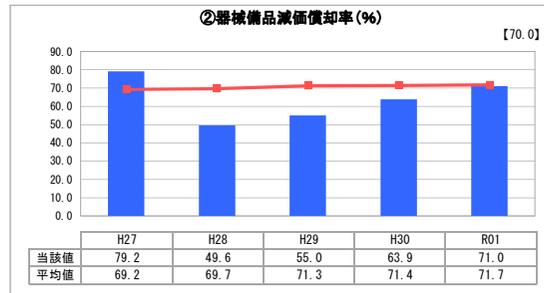
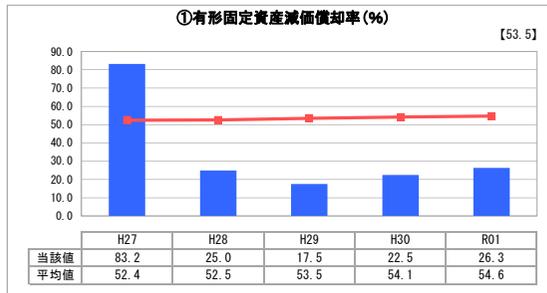
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
平成20年度	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

昨年に引き続き、救急・小児・心療内科といった不採算部門に関する医療を提供した。また、乳がん、子宮がんといった健診業務についても、引き続き行なった。そして、地域包括ケアシステムの担い手として、在宅との橋渡しの役割は継続している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

入院患者数については、平成30年度とほぼ同じで、患者1人1日あたり入院収益は、増加した。経常収支率は、前年度より若干落ち込んでおり、累積欠損金が増加した。病床利用率90%以上を維持しないと経常収支100%以上は不可能なため、今後、入院患者数の高値維持に向け、各病棟（急性期、地域包括ケア、回復期ケア）で提供できる医療について、高度急性期医療を提供する病院及び介護施設等に広報している。

2. 老朽化の状況について

平成28年10月より新築病院で運営を行っており、建物の老朽化は該当しない。医療機器については、それぞれの耐用年数経過時に、今後の使用状況、対費用効果などで今後いつ更新するか判断していく。

電子カルテについては、パソコンといったハード面を一部更新した。

全体総括

新病院における年間での運営3年目。延べ入院患者数は前年度同様、若干患者1人1日あたり収益は上昇したが、昨年同様に赤字額が増加してしまった。新病院建設により減価償却費が高額であること、入院患者数を高い値で維持するために必要な人材の確保による人件費の増加で固定費が高い値で維持されることになっており、経常収支の黒字化には、年間病床利用率の90%以上が絶対条件である。そのため、令和2年度は今年度設置した経営企画室を本格稼働させ、診療点数増加対策といった各種プロジェクトチームを立ち上げ、経常収支100%以上を目指す。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。